



広島大学



広島大学附属学校園 2026

グローバル人材に求められる資質・能力の育成を目指して

目次

挨拶	1
組織図・学級の編制及び定員	2
理念と役割・特色ある取組	3
附属小学校	4
附属中学校・附属高等学校	6
附属東雲小学校・附属東雲中学校	8
※2029（令和11年度）から附属東雲義務教育学校（仮称）に改組予定	
附属幼稚園（東広島園舎）	12
附属幼稚園（三原園舎）・附属三原小学校・附属三原中学校	14
附属福山中学校・附属福山高等学校	18
※2027（令和9年度）から附属福山中等教育学校に改組予定	
研究発表会の開催予定・人事交流の状況	20
位置図・アクセス	21



理事・副学長（教育・平和担当）

島田昌之

教育の未来を 創る広島大学 附属学校園

本学附属学校園は、現在県内5地区に幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の10校園を備え、西日本の国立大学附属学校園としては最大規模となっています。

それぞれの学校園は、明治時代に県内各所に設置された広島県公立師範学校や広島高等師範学校の附属学校を前身として、その伝統を継承しつつ社会の要請に対応し、教育実習、教育研究、現職教員研修を通して、教育の充実・発展に寄与し続けてまいりました。

研究開発では、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）、WWL（ワールドワイドラーニング）をはじめ、幼小中一貫教育課程開発、小学校におけるグローバル化に対応した教育課程開発など国の教育研究の開発拠点としての貢献はもちろんのこと、多様な教育ニーズに対応した特別支援教育、複式学級教育、幼小連携教育、STEAM教育等にも取り組み、毎年多くの参加者を集める研究会や、研究紀要等の発行を通してその成果を還元してきたところです。

昨年11月には、大学と一体となって我が国の初等・中等・高等教育を包括した教育改革を牽引できるよう、附属学校の本来の使命や国の教育政策を踏まえ、それぞれの附属学校園の役割・学校種・規模の見直しについて、公表しました。

これにより、将来的には新たに義務教育学校と中等教育学校を改組により加え、ほぼ全学校種が附属学校園に揃い、学校種の特長や各附属学校の役割を確実に果たすことで、これまで以上に、附属学校園全体として多様化した教育課題やニーズにより幅広く、より効果的に対応できる体制が整うことになります。

今後も更に一層皆様のご期待に応えることができるよう、伝統と革新の二つの視点を持ちながら、常に前進し続けて参ります。

附属学校園 運営の基盤

副理事（附属学校担当）

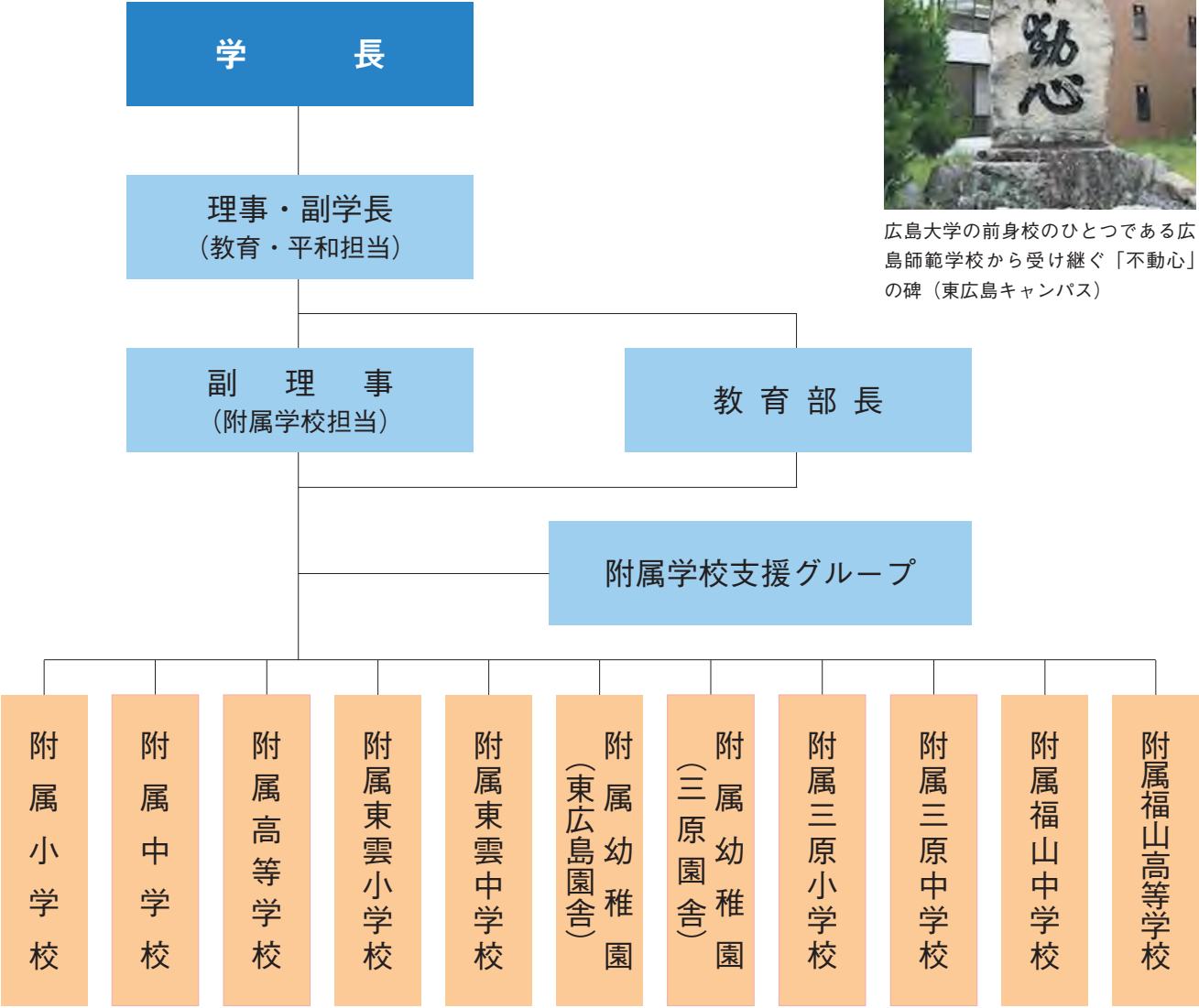
松浦武人



本学の附属学校園は、各地区・各学校園の伝統と文化を踏まえながら、「実験的・先導的な学校教育」、「大学・学部における教育に関する研究への協力」、「教育実習の実施」という国立大学附属学校園の使命・役割を果たし、日本の教育界の発展に貢献してきました。

今後とも一層、大学と一体となり、関係県・市の教育委員会との連携をより密に実施し、日本の初等・中等・高等学校教育を包括した教育改革を牽引することができるよう、努めて参りたいと思います。また、これらの使命・役割を確実に果たすための基盤として、本学の第一の理念である「平和を希求する精神」に基づく平和教育の推進、発達支持的生徒指導を核とした生徒指導と学習指導の一体化に努めて参ります。

組織図



広島大学の前身校のひとつである広島師範学校から受け継ぐ「不動心」の碑（東広島キャンパス）

学級の編制及び定員

学校園名	区分	1学年		学校園全体		
		学級数	入学定員	学級数	収容定員	収容定員合計
附属幼稚園 (東広島園舎)	2年保育	1	10	3	80	80
	3年保育		20			
附属幼稚園 (三原園舎)	2年保育	1	10	3	80	80
	3年保育		20			
附属小学校	普通学級	2	64	12	384	384
附属東雲小学校	普通学級	2	64	12	384	456
	複式学級	1	8	3	48	
	特別支援学級	1	4	3	24	
附属三原小学校	普通学級	2	64	12	384	384
附属中学校	普通学級	3	120	9	360	360
附属東雲中学校	普通学級	2	80	6	240	264
	特別支援学級	1	8	3	24	
附属三原中学校	普通学級	2	80	6	240	240
附属福山中学校	普通学級	3	120	9	360	360
附属高等学校	普通学級	5	200	15	600	600
附属福山高等学校	普通学級	5	200	15	600	600
計		31	1,072	111	3,808	3,808

理念と役割

広島大学附属学校園は、広島大学全体の附属学校として位置付けられており、その基本的な理念と役割は、附属学校が直接的または間接的にかかわって学内外の人の発達の支援に貢献することとしています。それは、長年継続してきた次のような活動から見ることができます。

- 個性を尊重しつつ、偏りのない教育を実践し、将来にわたって社会で幅広く活躍できるような幼児・児童・生徒を育てる。
- 大学教員の専門的教育・研究活動に接しながら、教育の実践的先端的研究を行い、その成果によって全国教育界の先導的役割を果たす。
- 質量ともに充実した教育実習を行って資質の高い教員の養成に協力し、各地の教育界にその成果を反映させる。
- 大学との多面的な連携を通して人にかかわる専門的研究の推進に協力する。

特色ある取組

広島大学附属学校園は、スーパーグローバル大学創生支援事業で掲げた目標達成を目指す大学の附属学校として、さらには幼稚園から高等学校までの学校種を有している強みを活かして、あらゆる発達段階の幼児・児童・生徒を対象とした教育研究、教育実習にグローバルな視点を取り入れています。

また、広域にわたる教員研修の拠点校として、西日本各府県等の教育委員会との連携を強化し、広く教員の資質向上に貢献することを目標としています。

このような活動をととして、広島大学附属学校園は、以下の4つの機能の強化に取り組んでいます。

教育機能 初等中等教育段階で、外国語教育のみならず、批判的思考力、論理的表現力、チームワークやリーダーシップなどグローバル人材に求められる資質・能力を育成する教育課程及びその評価方法を開発し、その成果を検証する。	社会連携・教員研修機能 西日本の教員研修拠点としての機能を十分発揮できるよう、体系的な教員研修プログラムを策定するとともに、西日本各府県の教育委員会との連携を強化し、交流協定数を増加させる。	教育研究機能 大学と附属学校との連携強化と大学の教育研究への協力を進め、先進的な教育研究開発に取り組む。	教員養成機能 グローバルな教員を養成するという教育学部・教育学研究科の方針に基づき、附属学校においても教育実習生に、グローバルマインドを育成する指導法や英語による授業展開の指導方法及びアクティブ・ラーニングなど新たな学びの方法を習得させるとともに、大学院生のインターンシップの場として活用し、実践的な指導力を身に付けさせる。
--	---	--	--

例えば・・・

広島大学学部附属共同研究プロジェクト

附属学校教員と大学教員が共同で、教育又は幼児・児童・生徒の発達にかかわることについて理論的、実証的研究を行う事業として実施しています。

令和8年度 採択9件 研究補助金 2,367,000円

西日本各府県教育委員会との交流

西日本の教員研修拠点としての機能、教員の資質向上及び教育研究の一層の活性化を図るため各府県教育委員会と人事交流協定を締結の上、教員の人事交流を実施しています。

2026年5月現在、岐阜県、愛知県、広島県、徳島県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、沖縄県、広島市、尾道市、福山市（9県3市）と人事交流協定を締結し、毎年10名程度の教員を受入れています。

2026年度の人事交流協定による在籍者は、50名（3県1市より受入れ）です。

附属小学校

〒734-0005 広島市南区翠一丁目1-1

TEL : 082-251-9882 FAX : 082-251-0196

https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_midori_shou



特色

- ① 全学年において教科担任制を実施し、専門教科等の授業実践研究を通して授業改善を図るとともに、教師の実践研究能力の向上に努めています。
- ② ユネスコスクール加盟校として「持続可能な開発のための教育（ESD）」を推進し、「平和」「キャリア」「自然」に関する生活科・総合学習のカリキュラム開発及び授業実践に取り組んでいます。
- ③ 小学校教育の向上発展に寄与するために、季刊誌「学校教育」（大正3年創刊）を発行しています。また、「研究発表協議会」「初等教育全国協議会」を開催し、研究成果を全国に発信しています。

研究テーマ



- ① 「“自分らしさ”を探究する子ども」の育成に向け、各教科や総合学習の特性を生かした授業を創出するとともに、特別活動の充実にも取り組んでいます。
- ② 令和8年度より、「問いとともに変わり続けるわたし」をテーマとし、授業実践研究に取り組んでいます。具体的には、「問いの生成と対話・省察」を大切にした探究サイクルのあり方を探っています。
- ③ 児童個々の特性をふまえつつ、個の発達に即した教育のあり方を探っています。

教員の職能向上

- ① 広島大学や他附属と連携することで、各教科の特性を生かした教科教育研究（教科教育のあり方や授業方法論の探究、実践的研究など）を推進するとともに、実践研究能力を向上させることができます。
- ② 広島市小学校教育研究会の各教科部会への参加や学校における指導助言などとおして、広島県や広島市の教職員とのネットワークを強化・拡大することができます。
- ③ 公開研究会、研究紀要、季刊誌（「学校教育」）、各種の学会や研究会をとおして、教育・研究の成果を公表することができます。

（次ページ教員研修プログラムを参照）



沿革

- 明治38年4月 広島高等師範学校附属小学校として創立
- 昭和27年4月 広島大学教育学部附属東千田小学校と改称
- 昭和30年7月 広島大学教育学部附属小学校と改称
- 昭和39年4月 皆実町へ移転（現広島市南区翠）
- 昭和53年6月 広島大学改組に伴い、広島大学附属小学校と改称

広島大学附属小学校における教員研修プログラム

附属小学校では、以下の研修プログラムを通じて、キャリアステージに応じた教科指導力やカリキュラム開発能力等、教師の実践研究能力を向上させることができます。

校内における研修

○包括的な研修

全学年における教科担任制を生かして、

- ・教科指導法の開発および実践
- ・「“自分らしさ”を探究する子ども」を育成するカリキュラム開発および実践
- ・総合的な学習のカリキュラム開発および実践等を通じて、包括的な教員研修プログラムに参加します。

○校内研修会を通じた研修

本校の研修プログラムの柱は、専門とする教科を基盤に行う2種類の校内研究授業があります。

- ・新任者研修会…本校に赴任した教員が5～6月に行う研究授業による校内研修会
- ・教科別研修会…教科ごとに1年間の中で行う研究授業は、以下のプロセスを通して行っており、校内教諭・大学教員との協同的な研修内容です。
 - ・広島大学教育学部の教員との協議による授業の構想検討
 - ・各研究室における学習指導案の検討
 - ・大学教員の参加を含めての校内研究授業および授業研究会の実施

○教育実習生指導を通じた研修

広島大学教育学部および人間社会科学研究科教職開発専攻に所属する学生・院生の教育実習を担当することで、教員養成を行うだけでなく、ミドルリーダーとしての資質・能力を向上させています。教育実習生指導は、公立学校の初任者や若手教員の成長を促し支援する立場の教諭として必要な資質・能力を向上させることができます。

○広島大学学部・附属共同研究

広島大学の教員および広島大学の他の附属学校の教員と共同で研究するシステムを活用し、多様な研究活動に参加することができます。教科等のメンバーと研究する機会を通して研究能力を高めることができます。

外部に開かれた研修

○研究大会を通じた発信力の育成

隔年で交互に開催する次の2種類の研究大会において、全員が公開授業及び研究協議を行うことで、授業力・研究力・発信力を高めています。

- ・初等教育全国協議会…個人の研究を中心とした研究大会
- ・研究発表協議会…学校としての研究を中心とした研究大会

○季刊誌「学校教育」を通じた発信力の育成

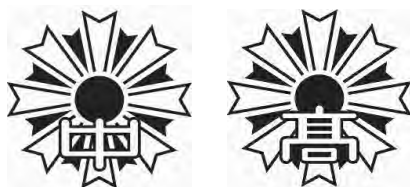
年に4回発行している「学校教育」を通じて、教材開発や授業研究等の教育実践を研究論文としてまとめ、発信力を高めています。

他機関等との連携による研修

他機関等との連携による研修に積極的に参加することを求め、本校の枠にとどまらない、一般性や専門性のある研修が行われるよう心がけています。

- ・広島県や広島市が提供する研修
- ・広島大学教育室教育部附属学校支援グループ等が企画する国内・国外での研修
- ・各個人が所属する学会やセミナー等への参加による研修

附属中学校 附属高等学校



〒734-0005 広島市南区翠一丁目1-1

TEL : 082-251-0192 FAX : 082-252-0725

https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_midori

特色

- ① 中学校と高等学校を併設した一体運営を行い、全教員が中高の学習指導・生徒指導にあたっています。自由・自主・自律の校風のもと、全人教育を基盤に、個性を尊重した教育を行っています。
- ② 体育祭や文化祭などの学校行事は生徒が主体的に企画運営しています。
- ③ 1953年にユネスコ本部から最初に指定されたユネスコスクールとして、授業、部活動、生徒会活動を通してSDGs教育を柱に、人権教育、平和教育、国際理解教育、環境教育等に関する研究・実践を行っています。
- ④ 2003年度に文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受けて以来、20年以上にわたり、将来有為な科学技術系人材の育成に資するカリキュラムの研究開発を行っています。

研究テーマ

- ① 2026年度中学校・高等学校教育研究大会の研究主題は、「協奏的な学びの創造—深い学びの実装—」
- ② SSH先導的の改革型第Ⅱ期の研究開発課題は、「将来の科学技術を牽引する人材育成の起点となる科学教育カリキュラムの持続可能な開発」
 - ・学校設定教科「iSAGAs」を開発・実施
 - ・課題研究を中核とした科学教育カリキュラムを開発・実施
 - ・海外連携校との科学共同授業や課題研究交流を実施



教員の職能向上

- ① 中学1年から高校3年まで6学年にわたる授業やホームルーム指導等を実際に担当し、校内研究授業での提案や協議、教育研究大会での公開授業、研究発表、研究協議等を行うことを通して、中等教育の全段階を見通した幅広い教科指導力・生徒指導力が備わります。
- ② SSH研究開発やユネスコスクールの取組、高大連携・高大接続の実践に関わることを通して、大学や研究機関、国内外の学校との交流を深めることができ、課題研究の指導、海外研修の引率等によって、国際的な視野と専門性を深化させるとともに、変化の激しい時代や社会に対応する指導力の向上が図れます。
- ③ 県境を越えた広域人事交流により、他県の教育事情等の情報交換や日常的な切磋琢磨を通して、教員としての幅広い視野と力量を獲得します。
(次ページ教員研修プログラムを参照)

沿革

明治38年 4月	広島高等師範学校附属中学校として創立
昭和24年 5月	広島大学広島高等師範学校附属中学校・同高等学校と改称
昭和27年 4月	広島大学教育学部附属東千田中学校・同高等学校と改称
昭和28年 11月	ユネスコ教育実験学校（現在の呼称はユネスコスクール）に指定
昭和30年 7月	広島大学教育学部附属中学校・同高等学校と改称
昭和36年 3月	現在地（当時、広島大学教養部、旧制広島高等学校跡）に移転
昭和53年 6月	広島大学改組に伴い、広島大学附属中学校・同高等学校と改称
平成15年 4月	スーパーサイエンスハイスクールに指定（令和8年4月から先導的の改革型第Ⅱ期の指定）

広島大学附属中学校・高等学校における教員研修プログラム

附属中学校・高等学校では、以下のような取組を通じて、教員の資質向上を目指しています。

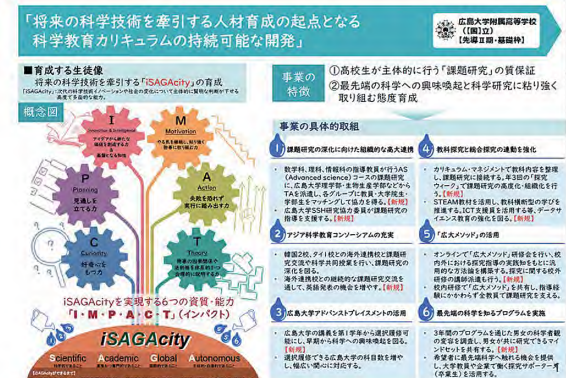
中等教育に関する研究

- 授業研究
 - ・中学校と高等学校の授業を同時に担当し、中高6カ年分の教材研究、授業研究の実施
- 校内研究授業
 - ・各教科年間2回以上実施
 - ・学校全体での校内研究授業実施
- 教育研究大会
 - ・全国各地から400人程度の参加を得て、各教科の公開授業、研究協議、研究発表などを実施
- 広島大学学部・附属学校共同研究
 - ・他地区の附属教員や広島大学の教員とプロジェクトを立ち上げて応募し、共同研究を実施
- 中等教育研究紀要
 - ・個人研究、共同研究など投稿
- 全国国立大学附属学校連盟高等学校部会教育研究大会など
 - ・参加や研究発表、他大学附属高校教員と交流
- 科学研究費（奨励研究）申請
 - ・個人で研究テーマや、研究計画を立案して応募、研究費を獲得して、研究を実施

研究開発（SSH）

- 学校設定教科「iSAGAs」では、高等学校全生徒を対象として、教科融合型授業や、課題研究指導を実施
- 課題研究の指導は、全教科・全教員が担当
- 高大接続を意図した学校設定科目等を組み込んだカリキュラムを開発・実施
- 海外研修（韓国、タイ）では、大学、研究機関、交流校との連携・調整を図り、プログラムを開発・実施

SSH先導第Ⅱ期(令和8年度～10年度)



教育実習指導

- 教育実習入門（7月・半日）：示範授業、協議
- 教育実習指導B（6月・3日間）：示範授業、協議、指導案作成指導、講話
- 教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱ（9月前半・2週間、9月後半・2週間）：示範授業、協議、指導案作成指導、実地授業指導、講話
- アクションリサーチ実地研究（教職大学院）：メンターとして（研究相談、授業協議等）

生徒指導

- 生徒の主体的な活動を支援
- 生徒会（体育祭、文化祭、クラスマッチなどの企画・運営）
- 部活動（中高合同で活動する部もあり）
- 修学旅行（行先を含め、学年ごとに特色ある研修旅行を企画・実施）

学校訪問への対応

- 令和7年度は32件の訪問を受入れ

附属東雲小学校



〒734-0022 広島市南区東雲三丁目1-33
TEL : 082-890-5111 FAX : 082-890-5114
https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_shino

特色

- ① 単式学級、複式学級、特別支援学級の3つの学級形態をもつ唯一の附属学校として、学年経営や学級経営、授業づくりについて実践研究しています。
- ② 縦割り班による活動を通して、異学年交流や高学年でのリーダー研修を実施しています。
- ③ 小中合同の公開研究会や複式教育授業座談会、他校への講師派遣などを通して研究成果を発信しています。教科教育とともに、基盤となる学級経営も重視した教育実習指導に取り組んでいます。

研究テーマ



- ① 東雲教育研究会
共に生きることを学ぶ各教科等の授業づくりー「学習内容」と「他者」とのかかわりの変容ー
- ② 複式教育授業座談会
自ら学びを求めて、自力で高まろうとする複式学級の授業づくり
- ③ 児童の共生関係を育む教育
・ESD・インクルーシブ教育の推進
・生活力のある児童の育成

教員の職能向上

- ① 複式教育、特別支援教育等、多様な教育実践を通して、幅広い教科指導力が備わります。
- ② 大学と連携した共同研究、学会等への参加、及び県内外の教員との交流を通して、各地の教育事情や最新の教育情報が得られ、指導力が向上します。
- ③ ユネスコスクールの取組等を通して、グローバル社会に即応した指導力と、教師としての幅広い視野を獲得できます。
(次ページ教員研修プログラムを参照)



沿革

- 明治8年10月 広島県公立師範学校附属小学校として創立
昭和24年5月 広島大学広島師範学校附属小学校と改称
昭和26年4月 広島大学教育学部附属東雲小学校と改称
昭和36年10月 特殊学級（特別支援学級）設置
昭和47年4月 複式学級設置
昭和53年6月 広島大学改組に伴い、広島大学附属東雲小学校と改称

広島大学附属東雲小学校における教員研修プログラム

附属東雲小学校では、以下の研修プログラムを通じて、教員の資質向上を目指しています。

子どもとのかかわりや教育環境づくりに関する力量を高めるための研修

- 決めたテーマについて話し合う「生活・心座談会」の取組（年4回4月7月8月3月）
「こんな学級経営をしたい」「保護者とより良い関係を作るために」「心のアンケートをもとに」などテーマに沿った話し合いを行うことで、情報交換の場にし、自分の取組や意識をとらえ直す機会にします。
- 朝の会や帰りの会の在り方を考える研修（年2回4月2月）
朝の会と帰りの会を教員全員で見合い、自主・自立・協働をキーワードにねらいや内容等を検討する研修を通して他学級から学ぶ、子どもの姿から学ぶという構えを持ち、教師自身の力量形成の場としています。
- 給食交流の取組（年4回6月10月11月2月）
担任が入れ替わり、他学級の子どもたちと給食時間を共にし、準備・会食・片づけの様子を観察してよりよい給食時間のあり方について研修します。
- 教育環境に関して考える「教室めぐり」の取組（年2回6月11月）
教室環境を見て回り、気づきや改善点の意見を交流し学び合うことによって、児童の生活と心の安定を図る教育環境づくりをめざします。

論文や実践のまとめを書くための研修

- 論文や研究紀要の書き方研修（年1回8月）
希望者が集い、論文の書き方に関する基本的な知識や技能を学びます。
- 教育情報や随想、卒業生へのメッセージ等の書き方に関する研修（年1回8月）
毎年本校が発行している諸々の出版物に関する原稿の内容や書き方に関する研修を行います。
- 大学の先生を招いての校内研究発表会（年1回12月）
毎年2名が自分が行った研究について全体場で発表し、質疑応答を行います。大学から講師を招聘し、研究内容や発表方法などアドバイスをいただきます。

授業力を高める研修

- 校内授業研究として
 - ・新任者の授業公開による授業研修（4月）
本校に新しく赴任した教員の授業公開、及び参観し、協議する研修会。
 - ・各教科等の提案による授業研究（1月）
教科ごとの基本的な考えを踏まえ、授業を公開、及び参観し、協議する研修会。
 - ・低・中・高学年部ごとに行うインクルーシブ教育の視点を取り入れた授業研究（6月）
低・中・高学年部に分かれ、特別支援学級の教師が単式・複式学級で授業を行ったり、単式・複式学級の教師が特別支援学級で行ったり、単式・複式学級の児童と特別支援学級の児童がともに授業する「交流及び共同学習」を行ったりして協議する研修会。
 - ・複式学級の授業への知見を深める授業研究（6月）
複式学級の授業を公開、及び参観し、複式教育について語り合い協議する研修会。
 - ・優れた実践者を招聘しての授業研究（2月）
全国の著名な教師を招聘しての授業公開、及び参観し、協議する研修会。
 - ・長期研修生の授業研究（2月）
県から長期研修で本校にきた教師による授業公開、及び参観し、協議する研修会。
- 小中合同の研究として
 - ・小中9年間を見通した教育実践研究に取り組むための小中合同研修（年7回）
小学校6年間と中学校3年間の計9年間を見通した教育実践研究に取り組むため、東雲小・中の教員が一同に会して研修を行います。全体で東雲教育研究会（11月）の研究主題について検討したり、教科等の分科会に分かれて、指導案等の検討を行ったりします。年に7回計画されていますが、その他に教科等での独自の検討も行います。
- 校外の教員とともに学ぶ授業研究として
 - ・複式教育を語り合う「複式教育授業座談会」の取組（6月）
複式学級の授業を公開し、それをもとに小グループでの話し合いを行う。その中で、それぞれの実態をもとにしたよさや悩みについて情報を交換したり共有したりします。
- 各教員の教育・研究の関心事に応じた研修
年に1～2回、学会や他校の研究会・研修会等に参加しています。全教員に対して、個人研究旅費を確保して、参加できる機会を保障しています。また、本校への示唆を中心に出張で学んだことを全体場で報告します。

附属東雲中学校



〒734-0022 広島市南区東雲三丁目1-33
TEL : 082-890-5222 FAX : 082-890-5226
https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_shino

特色

- ① アメリカの2校やインドネシアの1校と姉妹校提携して、毎年相互に訪問交流するなどの国際交流活動を推進しています。
- ② 自主・自立を精神とする東雲憲章のもと、縦割り集団による日常的な活動および特別活動を充実させています。
- ③ 特別支援学級との日常的な交流を通して、共生社会の担い手としての人材育成に取り組んでいます。

研究テーマ



- ① 附属東雲地区の特長を活かした学校教育目標「共生社会に生きる主体として自立的・協働的に学び育つ児童・生徒の育成」の実現に向けて、キーワードである「共生」に関わる研究の推進
・各教科等で「中学校卒業時にめざす子供の姿」を整理したうえで、「共に生きることを学ぶ授業づくりの特徴」を整理している。特に、各教科等における「学習内容」と「他者」の関係に焦点を当てて授業実践を整理している。
- ② グローバル社会をきりひらく資質・能力として、主体性・協働性・探究力を育成することを目指して、中学校3年間の総合的な学習の核と据える活動「SMART」の教育プログラム開発

教員の職能向上

- ① 大学教員との連携による共同研究を通して、指導法や教材開発等に関する研究力・実践力が備わります。
- ② 縦割り集団による日常的な活動や国際交流活動、SMART プログラムなど、カリキュラムマネジメントや本校オリジナルの指導スキルを向上させることができます。
- ③ 特別支援学級における教育実践やインクルーシブ教育を推進していく上で不可欠な資質・能力を向上させることができます。
(次ページ教員研修プログラムを参照)



沿革

- 昭和22年4月 広島師範学校男子部附属中学校として創立
昭和24年5月 広島大学広島師範学校附属中学校に改称
昭和26年4月 広島大学教育学部附属東雲中学校に改称
昭和38年4月 特殊学級（特別支援学級）設置
昭和53年6月 広島大学改組に伴い、広島大学附属東雲中学校に改称

広島大学附属東雲中学校における教員研修プログラム

附属東雲中学校では、以下の研修プログラムを通じて、教員の資質向上を目指しています。

授業力の向上

○プロジェクト研修による授業力の向上

- ・教員3～4名のプロジェクト・チームを編成し、1学期の間に3～4回程度、教科及び特別支援学級の授業公開および研究協議を行います。

他の附属学校園や地域の公立学校へも案内し、広島大学の共同研究者も参加します。

研究力の向上

○実践研究紀要の作成による研究力の向上

教員各自が設定した教科等に関する研究テーマをもとに、指導案・授業映像・解説をセットにした実践記録型の研究紀要を作成します。各教員が年に1本の作成を目標としており、諸条件をクリアして、ウェブページ上で公開する予定です。

○小中合同研修

小学校6年間と中学校3年間の計9年間を見通した教育実践研究に取り組むため、東雲小・中の教員が一同に会して研修を行います。全体で東雲教育研究会の研究主題について検討したり、教科等の分科会に分かれて、指導案の検討を行ったりしています。年に7回計画されていますが、その他に教科等での独自の検討も行っています。

異文化交流に関わる実践力の向上

○姉妹校来日交流での取り組み

- ・5月 Odyssey School（アメリカ カリフォルニア州）来日交流
- ・3月 Exploris Middle School（アメリカ ノースカロライナ州）来日交流

学級ごとに姉妹校の生徒が配属されるので、学級活動等を姉妹校の生徒と共に行い、教科の授業では、姉妹校生徒がいることを前提とした授業内容・展開を検討して実践します。

○渡米交流での取り組み

毎年8月に Exploris Middle School（アメリカ ノースカロライナ州）を、生徒を引率して訪問しています。

校外の教員とともに学ぶ研修

- 広島県内の行政機関や公立学校と連携して、研修講座や研究授業へ指導者として派遣し、これからの授業の在り方についてともに学びます。また、地域の公立学校へも案内して、現在の課題について地域の教員とともに学びます。

（例）しのめセミナー、広島県中学校数学教育実践研修会

各教員の教育・研究の関心事に応じた研修

- 年に1～2回、学会・他校の研究会・研修会等に参加します。全教員に対して、個人研究旅費を確保して、参加できる機会を保障するよう努めています。

附属幼稚園（東広島園舎）

〒739-0045 東広島市鏡山北333番地の2
TEL：082-424-6190 FAX：082-424-5528
<https://yochien.hiroshima-u.ac.jp>



特色

- ① 多様な環境との触れ合いを通して「生きる力」を支える保育を実践します。
- ② ユネスコスクール認定園及びひろしま自然保育認証園として、ESDの観点を取り入れた教育課程の開発を行っています。

研究テーマ

令和元年に作成したESDの構成概念を組み入れた教育課程の見直しに着手しています。

【研究テーマ】

子どもの主体的なかかわりを再考する～ESDの視点に立った教育課程の見直しに向けて～



教員の職能向上

- ① 広島大学大学院人間社会科学研究科附属幼年教育研究施設をはじめとした大学と連携、共同して保育の実践と研究を行うことにより、体系的かつ深化した保育実践力が向上します。
- ② 全国の附属幼稚園との交流、各種研修などにより、全国水準の新しい知見や情報、保育者としての広い視野が獲得できます。
- ③ 交流している公立小学校や附属幼稚園（三原園舎）や附属三原小学校と連携を図り、保育の質の向上に努めています。
(次ページ教員研修プログラムを参照)



本園研究会全体会

沿革

- 昭和41年4月 広島大学教育学部附属幼年教育研究施設が創立され、附属施設として広島大学教育学部附属幼稚園設置
昭和53年6月 大学・学部改組に伴い、広島大学附属幼稚園と改称
平成2年3月 東広島市東広島キャンパスに移転
平成29年4月 ユネスコスクールに指定
令和6年4月 幼稚園の組織改革により、広島大学附属幼稚園（東広島園舎）と改称

広島大学附属幼稚園（東広島園舎）における教員研修プログラム

附属幼稚園（東広島園舎）では、以下のような取組を通じて、教員の資質向上を目指しています。

本園の教育目標の具現化に向けての取組

本園の教育目標 「豊かな自然や友達とかかわりながら一人一人がその子らしさを発揮し共に育ち合う生活を通して心豊かにたくましく生きる力を育む」

- 子どもたちが多様な環境とかかわる中で、身のこなし、意欲、感情、創造性、共同性、自然への畏怖など、生きていく力の根っこを育む保育を職員一同チームになって取り組んでいます。また、日々の保育を保護者へ発信し、同じ目線で子どもを育てています。
- 子どもの発達を系統的にとらえた教育課程の中で、充実した保育実践を行っています。子ども達が、目的を持ち、主体的に活動する姿が見られます。
- ユネスコスクールとして、保護者会と共同で「親子で遊ぶ日」を設け、園の環境での遊びをみんなで体験します。

研究開発

- ESDの視点に立った教育課程への更新に向け、これまでに導き出した「本園教職員が捉えた子どもが周囲の環境に対して主体的にかかわるための要因のまとめ」を参考にしながら日々保育実践を行います。また、小学校との連携を図り、小学校以降の教育とのつながりの可能性を考察しています。
- 保護者啓発として、研究開発だよりの発行やドキュメンテーションを通して、保護者理解を図っています。
- 広島大学大学院社会科学部附属幼児教育研究施設をはじめとした大学と連携、共同して保育の実践と研究を行うことにより、体系的かつ深化した保育実践力が向上しています。
- 広島県教育委員会事務局教育部乳幼児教育支援センターの研修「幼保小の育ちと学びをつなぐ」「初任者研修」等において、公開保育を行ったり、現場の声を届けたりすることで、小学校教育と幼児教育の接続を学ぶ役割を担っています。
- 研究の進化・発信として、人事交流があげられます。本園の養護教諭は、小学校から派遣していただいています。また令和8年度には、長期研修として、公立小学校教諭を1名派遣していただき、本園の研修を深めるとともに、小学校への幼児教育の発信となっています。
- 海外からの視察を積極的に受け入れ、研究の成果を発信しています。本園の多様な環境を活用した保育に影響を受け、母国で野外での保育を展開する試みを始めたという実践も聞いています。

附属幼稚園（三原園舎） 附属三原小学校 附属三原中学校

〒723-0004 広島県三原市館町二丁目6-1
TEL：0848-62-4884 FAX：0848-60-0121
https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_mihara



特色

- ① 同一敷地内に幼稚園・小学校・中学校が存在する特徴を生かし、幼小中12年間一貫教育を行っています。異校種・異学年同士の交流保育・授業や活動の実施など、最先端の幼小接続、小中接続を行っています。
- ② 文部科学省の教育課程特例校として、領域「光輝（かがやき）」と保育・教科を関連させた幼小中一貫教育カリキュラムの研究に取り組んでいます。



研究テーマ

令和6年度より文部科学省教育課程特例校に指定されています。

【研究テーマ】

「レジリエンスの育成をめざす幼小中一貫教育カリキュラムの研究－「対話」を核とした保育・授業モデルの開発と運用－」

*領域「光輝（かがやき）」

総合的な学習の時間・道徳・特別活動全てと保育・教科内容を関連させた領域

教員の職能向上

- ① 領域「光輝（かがやき）」の研究開発を大学等との連携のもと進めることで、先進的な視野と力量を獲得することができます。
- ② 幼稚園、小学校、中学校それぞれの子どもの育ちの違いを身近で実態把握することができ、発達段階に即した12年間一貫のカリキュラム・マネジメント力が獲得されます。
- ③ 幼稚園、小学校、中学校の教員が組織的・協働的に教育研究・実践を行うことで、一貫教育・連携教育を推進する力量が向上します。
- ④ 三原市教育研究会（教科・教科外）部会に教員が参加し、交流や研究を深めています。
（次ページ教員研修プログラムを参照）

沿革

附属幼稚園（三原園舎）

大正2年4月 広島県三原女子師範学校附属幼稚園として創立
昭和24年5月 広島大学広島師範学校附属幼稚園と改称
昭和26年4月 広島大学教育学部附属幼稚園と改称
昭和41年4月 広島大学教育学部附属三原幼稚園と改称
昭和53年6月 広島大学改組に伴い、広島大学附属三原幼稚園と改称
令和6年4月 幼稚園の組織改革により、広島大学附属幼稚園（三原園舎）と改称

附属三原小学校

明治44年4月 広島県三原女子師範学校附属小学校として創立
昭和24年5月 広島大学広島師範学校附属小学校と改称
昭和26年4月 広島大学教育学部附属三原小学校と改称
昭和53年6月 広島大学改組に伴い、広島大学附属三原小学校と改称

附属三原中学校

昭和22年4月 広島師範学校女子部附属中学校として創立
平成24年5月 広島大学広島師範学校附属中学校と改称
昭和26年4月 広島大学教育学部附属三原中学校と改称
昭和53年6月 広島大学改組に伴い、広島大学附属三原中学校と改称

広島大学附属幼稚園（三原園舎）における教員研修プログラム

附属幼稚園（三原園舎）では、以下のような取組を通じて、教員の資質向上を目指しています。

教育理念『自ら伸びよ』の具現化に向けた取組

自然豊かな園庭（フレーベルによる回遊式園庭）で四季折々の自然を感じながら夢中になって遊び、「自分とのかかわり」「ものとかかわり」「人とかかわり」を通して成長を促す計画的な取組が学べます。

○充実した保育実践

- ・3年間で13期に分けて、3～5歳の発達を系統的にとらえた教育課程に基づいた保育実践
- ・幼児の実態を踏まえながら、ねらいを達成していくために必要な、その時期にふさわしい教師のかかわりや環境構成
⇒『やってみる楽しさ 気付くおもしろさ 伝え合う喜びを、
夢中になって遊ぶ中で実感できる保育』

○東広島園舎との交流

- ・年長児を中心とした園児の交流・研究会への参加による教員の交流を通し、質の高い保育を目指します。

○幼小接続カリキュラムの策定と実施

- ・幼稚園教諭・小学校1・2年生担任を中心に、幼小接続カリキュラムを策定し、実践・改善していく過程と共に、接続カリキュラムによる幼・小の実践が学べます。

○小学校・中学校との交流活動

- ・幼稚園年長児と小学校4年生、幼稚園年中児と中学校2年生（8年生）で固定のペアを組み、年間を通して交流活動を行っています。これらの交流活動の取組から、親しみの気持ちや感謝の気持ちを持ち、人と豊かにかわる力を育む実践が学べます。

教育研究に関して

- 研究開発の研究・実践や保育について、広島大学の先生方からの指導・助言を得ながら深化・充実させていくことができます。
- 広島県教育委員会等の研修において保育を公開したり、講師を務めたりすることにより、県内の幼児教育の指導的な役割の一端を担い、貢献することができると共に、実践力、構成力、発信力などを培うことができます。
- 幼小中一貫教育研究会、公開園内研究で保育公開や協議会を行い、理論に裏付けられた実践を深め、力量を高めることができます。
- 本園が、乳幼児教育の拠点として設置者の別・設置形態の別を超えて、国公立の広島県内・三原市内の幼稚園・保育園・認定こども園等の各組織をつなぐ役割を担い、事務局として活動している様子から、広い視野に立って幼児教育を考える視点とその実際について学ぶことができます。
- 現在の交流人事の教員（小学校からの養護教諭）の職能向上に関する取組としては、以下のようなものがあります。

<附属幼稚園（三原園舎）の養護教諭ならではの経験として>

- ・幼稚園での保健指導について教材研究等を進め、実践することにより、発達段階を踏まえたより深まりのある保健指導の実践が学べ、公立学校での保健指導に役立ちます。
- ・附属三原小学校、附属三原中学校の養護教諭と連携し、幼・小・中の発達段階に応じた養護教諭の役割や実際について広く学んでいます。
- ・小学校、中学校の養護教諭とともに広島大学の先生との共同研究を行うことにより、実践研究を深めています。
- ・養護実習生（医学部・歯学部）の指導を行うことにより、養護教諭としての力量を高めています。
- ・学校歯科医と連携した「親子ブラッシング教室」を計画・実施することにより、専門性を生かした保健指導がなされています。
- ・中国地区附属幼稚園及び、全国附属幼稚園の養護教諭との実践交流等により、全国的な視野で学び、実践に生かしています。

広島大学附属三原小学校における教員研修プログラム

附属三原小学校では、以下のような取組を通じて、教員の資質向上を目指しています。

附属三原小学校で学べること

○学校教育目標の具現化に向けた日常の取組が学べます。

- ・子どもたちが主体となって進める授業づくり
- ・学校生活づくり

（自伸会行事、委員会活動、学級活動等を支える教職員の指導・支援の実際）

- 文部科学省指定研究開発学校として研究を進めており、教育課程全体にかかわるカリキュラム・マネジメントを実地に学ぶことができます。
- 研究構想段階から広島大学教員と連携して授業研究を行い、授業改善を図ることができます。
- 幼小中一貫教育を行っており、日常的に日々の保育・授業を参観したり、所属の異なる教員と協議等を行ったりすることができます。
- 幼小中一貫教育研究会・授業づくり研修会で、授業公開・協議会、ワークショップ提案等を行い、広島大学教員、教育委員会指導主事、参加者から指導を仰ぐことができます。
- 学部附属共同研究、科学研究費助成事業奨励研究、各種学会での発表等に取り組むことで、実践研究を深めることができます。
- 公立学校の校内研修、研究大会等へ講師として招聘されることで、教材研究・授業分析・情報発信等の力を培うことができます。
- 大学生・大学院生への教育実習・実地研究の指導を行うことで、授業づくり・学級運営等の力量を高めることができます。

「学校教育目標の具現化に向けた日常の取組が学べる」の内容の具体

「自ら伸びよ」の具現化に向けた学校生活の日々の取組が学べます。

○連帯する個の育成に向けた取組

（質の高い集団の中で仲間とともに磨き合い、自己を発揮する個の育成）

連帯する個の育成に向けて

授業集団づくり…教科学習と生活指導を融合させて人格の形成を図ります。

自己表現力開発…ドラマ教育の理念・手法を用いて、全人格にかかわる資質の開発・伸長、調和的発達をめざします。

①授業づくり

「学ばせたいこと」を「学びたいこと」に転換し、子どもたちが主体となって進める授業づくり

②子どもたちが創る学校生活

- ・自伸会（児童会）活動や異学年交流活動等を子どもたちが主体となって取り組むための支援
- ・子どもたちが目的・目標を設定・意識・自覚して、企画・運営・振り返り・新たな取組を実践

③自己表現力開発の取組

演劇的手法を用いたアクティビティを朝学習の時間に継続

- ・感覚器官を働かせて事象を深く感じ、想像力を働かせ表現する活動を継続的にを行います。
- ・自己の資質を発見し、集団に位置づき、肯定感を高めます。

広島大学附属三原中学校における教員研修プログラム

附属三原中学校では、以下のような取組を通じて、教員の資質向上を目指しています。

1 教育理念「自ら伸びよ」、自伸会三信条（大正13年制定）を軸とした諸活動

○生徒、教職員、保護者が一体となって、教育理念や自伸会三信条（私たちは 私たちの力で伸びていこう・私たちは 人のためにつくして感謝しよう・私たちは 私たちのきまりを尊重しよう）を中心にして諸活動を展開している実際を体験することができます。

2 前期中等教育に関する研究

○校内研修の一環として校内研究授業を行っています。新任者による研究授業と教科ごとに行う研究授業（大学教員の参加も含む）があります。その他、ICT 関連、生徒理解、道徳、評価等様々な校内研修を計画的に実施しています。

○教育研究大会を毎年開催し、研究発表、各教科の公開授業、研究協議、講演会などを実施しています。

○広島大学学部・附属学校共同研究への応募

・附属三原学校園の他校種の附属教員や他地区の附属教員、広島大学の教員と研究課題を設定して応募し、採用されると共同研究を行うことができます。

○科学研究費助成事業（科研費奨励研究）への応募

・個人で研究テーマを設定し、研究計画を立案して応募し、研究費を獲得して研究を実施することを奨励しています。

○個人研究のために学会発表や先進校視察等の予算補助を行っています。

3 研究開発

○研究開発指定校として培ってきた実践をもとに、今後の学習指導要領改訂に資する資料を提供するための研究を継続的に行っています。現在は教育課程特例校として、領域「光輝（かがやき）」を中心に幼小中一貫教育と教科を関連させたカリキュラム開発の研究を行っており、その中で各教科の学習内容や見方・考え方の新たな方向性や指導方法等について研究することができます。また、その過程で同僚や大学教員と連携し、学校教育に関する知見を広げ、実践力を身につけることができます。

○それぞれの教科目標が達成できるように、学習全般に関する評価やカリキュラムに関する評価等、多様な観点から評価活動を研究することができます。

4 教育実習等の指導・運営

○教育実習入門、教育実習指導 B・C、教育実習Ⅰ・Ⅱ、大学院人間社会科学研究科「教科教育学の実践的検証」、教職大学院「アクションリサーチ実地研究」、広島県教員長期研修等の運営・指導をしています。

5 自伸会活動・生徒指導

○自伸会三信条の精神を醸成するため、生徒の主体的な活動を支援しています。

・自伸会活動（総会、幼小中合同運動会、文化祭、自伸会選挙、九送会などの企画・運営）

・クラブ活動（入部は任意）

○一人ひとりの生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、学校教育目標や目指す生徒像の実現を目指した生徒指導を行っています。

・定期的な個人面談の実施

・全学年で計画的な SSE、SGE の実施

・いじめに関するアンケート、登下校に関するアンケート等の定期的な実施

附属福山中学校 附属福山高等学校



〒721-8551 広島県福山市春日町五丁目14-1

TEL : 084-941-8350 FAX : 084-941-8356

https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_fukuyama

特色

全国に先駆けて昭和37年より中・高6ヶ年一貫教育に取り組んでおり、学習内容だけでなく校内運営、教員の教科担当、学校行事、生徒指導、クラブ活動などあらゆる活動が中高一体のものとして進められています。自由な校風のもと、自主・自立・自律の精神を追求し、日本と国際社会の第一線をリードする人材の育成を学校の教育目標に掲げています。「ベルもチャイムも鳴らない学校」は、生徒の自主性に重きを置き、生徒自身の判断で行動するという教育方針を代表するものとして広く知られています。

6年生「創造Ⅱ」 作品を創り発表する	6年生「提言Ⅱ」 研究をまとめ発表する
5年生「創造Ⅰ」 論理的・創造的な表現を学ぶ	5年生「提言Ⅰ」 研究を深め論文を書く
5年生「グローバルコミュニケーション」 英語で論理的に表現する	
4年生「探究」 研究を学ぶ・データに基づいた探究活動	
3年生：主体的な学びを学ぶ 自らの興味関心を見つめ、探究したいテーマを深める	
2年生：課題発見を学ぶ 実験や観察を行い、課題発見と課題解決の方策について学ぶ	
1年生：研究を学ぶ 学ぶ方法を学ぶ 探究的な態度を育む	

研究テーマ

「教科の本質的な学びを基盤とした新たな時代に必要な能力の育成」をテーマに各教科での実践をすすめるとともに、生徒の深い学びにつながるよう、複数の教科が一緒に授業を行う「越境」の授業実践を行い、教育研究会で公開しています。

また、「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」においては、6年間のつながりを意識したカリキュラムの中で、探究活動が深まっていくよう取り組んでいます。

教員の職能向上

全教科一つのテーマのもとで研究を進めるという協働の営みの中で、教員としての職能向上を目指しています。また、大学や研究機関と連携し、最新の教育理論や科学技術の成果を教育に活かすことで、次々と変化していく社会に対応した指導力の向上を図っています。

(次ページ教員研修プログラムを参照)



沿革

- 明治20年12月 前身となった学校の中では最も古い広島高等女学校が広島市に創立
- 昭和25年4月 広島女子高等師範学校附属中学校・高等学校の一部が福山市に移転、広島青年師範学校附属中学校・高等学校と合併して開校
- 昭和26年4月 広島大学教育学部附属福山中学校と改称
- 昭和27年4月 広島大学教育学部附属福山高等学校と改称
- 昭和53年6月 広島大学改組に伴い、広島大学附属福山中・高等学校と改称

広島大学附属福山中学校・高等学校における教員研修プログラム

人事交流教員が研修成果をあげることができるよう、各教科での授業研究や、広島大学との共同研究による授業力向上の研修等を実施しています。その際、例えば人事交流教員が当校の教育研究会での研究授業を大学教員および派遣元の指導主事の先生と連携をとりながら構想していくなど、教員のキャリアステージに応じた研修となるよう、個に応じた研修プログラムを構築しています。

○授業研究

中学校と高等学校の授業を担当することで、中高6カ年を見通した教材研究、授業研究を行っていただきます。特に、これまでの研究開発の蓄積から、最先端の教育課題に向き合った授業研究を体験いただけます。生徒のグループや個人による課題研究の指導についても、全教科の教員が担当しますが、これまでの指導方法の共有により、初めて担当した先生が困らないような進め方をしています。

○研究授業

教育実習における師範授業等も含め、多くの研究授業を経験していただきます。

○広島大学附属福山中・高等学校 教育研究大会

広島大学の教員による指導を受けながら、授業を構築する機会を設けています。また、教科での研究発表を担当いただくこともあります。

○広島大学学部・附属学校共同研究

広島大学の教員および広島大学の他の附属学校の教員と共同で研究するシステムを利用し、様々な研究が推進されています。教科等のメンバーとして研究に携わっていただく機会を設けています。

○広島大学附属福山中・高等学校 中等教育研究紀要

学校全体での研究（分担執筆）に加え、個人研究の掲載を行っており、個人研究は希望を募って執筆いただいています。当校での実践を教育系の学会等で発表する教員も多く、普段から研究に取り組む雰囲気を持った学校です。

○全国附属学校連盟高等学校部会教育研究大会

年ごとに教科や生徒指導、図書、教育課程などの分科会が開催され、実践発表の場となっています。

○科学研究費助成事業（科研費）奨励研究への応募の奨励

日本学術振興会による科研費のうち、中・高の教員が応募可能な奨励研究への応募を奨励し、個人での研究テーマ設定、計画立案など、研究費獲得に向けての助言等を行っています。

○教育実習指導

広島大学の教育実習を毎年延べ約300名受け入れています。教科によって違いはありますが、2～3名の教員でグループを作り、指導案や授業・反省会などの指導に当たっています。大学で学習している最新の教育理論などでは、実習生から刺激を受けることもあり、附属の教員にとっても理論と実践を結びつけるよい機会になっています。

○自由・自主・自立を促す生徒指導

当校の校風である「自由」「自主」「自立」の精神をはぐくむため、生徒の主体性を重視した生徒指導を行っています。生徒ひとりひとりの思いや願いを丁寧にくみ取る面談を中心とした指導にも力を入れています。みなが自由であるために必要な条件を考えさせ、「他者へのまなざし」を身につけさせることを方針とした生徒指導は、当校ならではの特徴あるものと考えています。

研究発表会の開催予定

学 校 園 名	名 称	開 催 予 定
附 属 小 学 校	研 究 発 表 協 議 会	隔年2月第一金・土曜日
	初 等 教 育 全 国 協 議 会	隔年2月第一金・土曜日
附 属 中 学 校 附 属 高 等 学 校	教 育 研 究 大 会	11月下旬
附 属 東 雲 小 学 校 附 属 東 雲 中 学 校	東 雲 教 育 研 究 会	11月中旬
附属幼稚園（東広島園舎）	研 究 大 会	10月下旬
附属幼稚園（三原園舎） 附 属 三 原 小 学 校 附 属 三 原 中 学 校	公 開 研 究 会	12月上旬
附 属 福 山 中 学 校 附 属 福 山 高 等 学 校	教 育 研 究 会	11月下旬

人事交流の状況

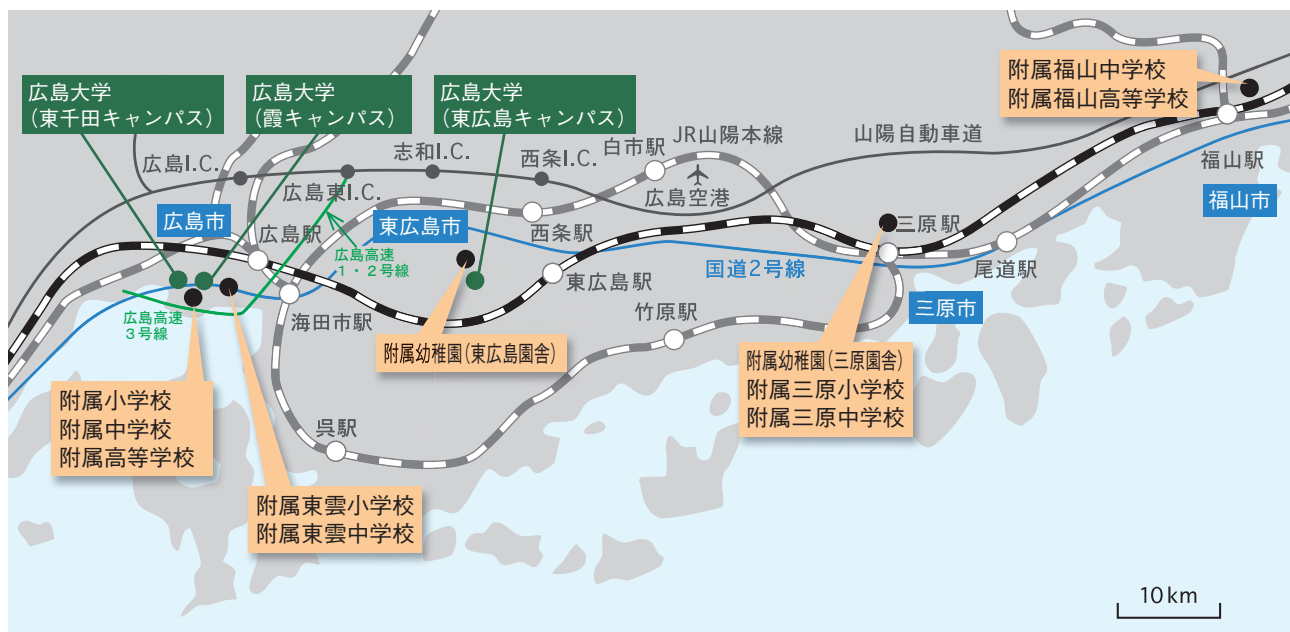
人事交流協定に基づき受入れた教員数

	2026年度	2025年度	2024年度	2023年度	2022年度	計
広 島 県	5	6	8	9	5	32
福 岡 県			1	1	1	3
佐 賀 県		1	2		2	5
長 崎 県						0
広 島 市	4	2	5	3	2	17
計	9	9	16	13	10	57

人事交流協定に基づき受入れ、在籍している教員の数（2026年5月1日現在）

	広島県	福岡県	佐賀県	広島市	計
附 属 小 学 校	1			3	4
附 属 中 学 校					0
附 属 高 等 学 校	3				3
附 属 東 雲 小 学 校	3			8	11
附 属 東 雲 中 学 校	5			5	10
附属幼稚園（東広島園舎）	1				1
附属幼稚園（三原園舎）	1				1
附 属 三 原 小 学 校	8		1		9
附 属 三 原 中 学 校	6				6
附 属 福 山 中 学 校	2				2
附 属 福 山 高 等 学 校	1	1	1		3
計	31	1	2	16	50

位置図



アクセス

附属小学校・附属中学校・附属高等学校へのアクセス

市内電車を利用する場合

JR広島駅	比治山下経由広島港行き（5号線）	所要時間 約20分	広大附属学校前下車
紙屋町	広島港行き（1号線・3号線）	所要時間 約20分	広大附属学校前下車

附属東雲小学校・附属東雲中学校へのアクセス

バスを利用する場合

JR広島駅	仁保車庫行 向洋新町行（4号線）	所要時間 約15分	東雲2丁目下車徒歩約10分
紙屋町	仁保車庫行 向洋新町行（7号線）	所要時間 約20分	東雲下車徒歩約5分

附属幼稚園（東広島園舎）へのアクセス

バスを利用する場合

JR西条駅	広島大学行バス	所要時間 約20分	池の上学生宿舎前下車徒歩約5分
-------	---------	--------------	-----------------

附属幼稚園（三原園舎）・附属三原小学校・附属三原中学校へのアクセス

徒歩の場合

JR三原駅	駅北口から約5分
-------	----------

附属福山中学校・附属福山高等学校へのアクセス

バスを利用する場合

JR福山駅	深津隧道経由銅管病院・銅管町線	所要時間 約20分	広大付属校前下車
-------	-----------------	--------------	----------

HIROSHIMA UNIVERSITY

広島大学附属学校園 2026

編集・発行 広島大学教育室教育部附属学校支援グループ
〒739-8524 東広島市鏡山1-1-1
TEL 082-424-6966 FAX 082-424-6968
E-mail fuzoku-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp
<https://www.hiroshima-u.ac.jp/fuzoku>